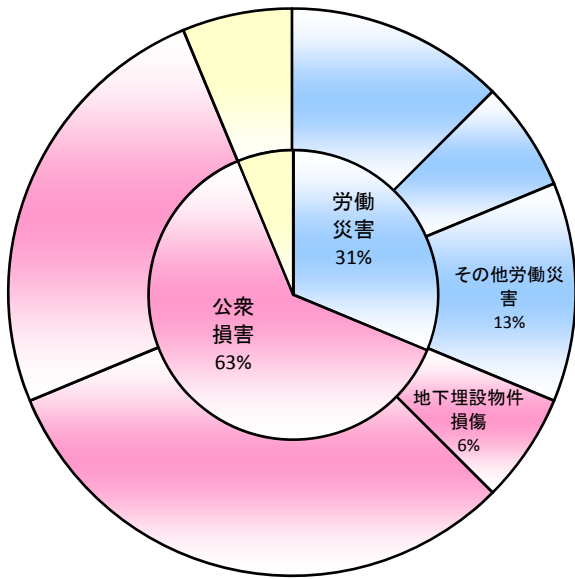


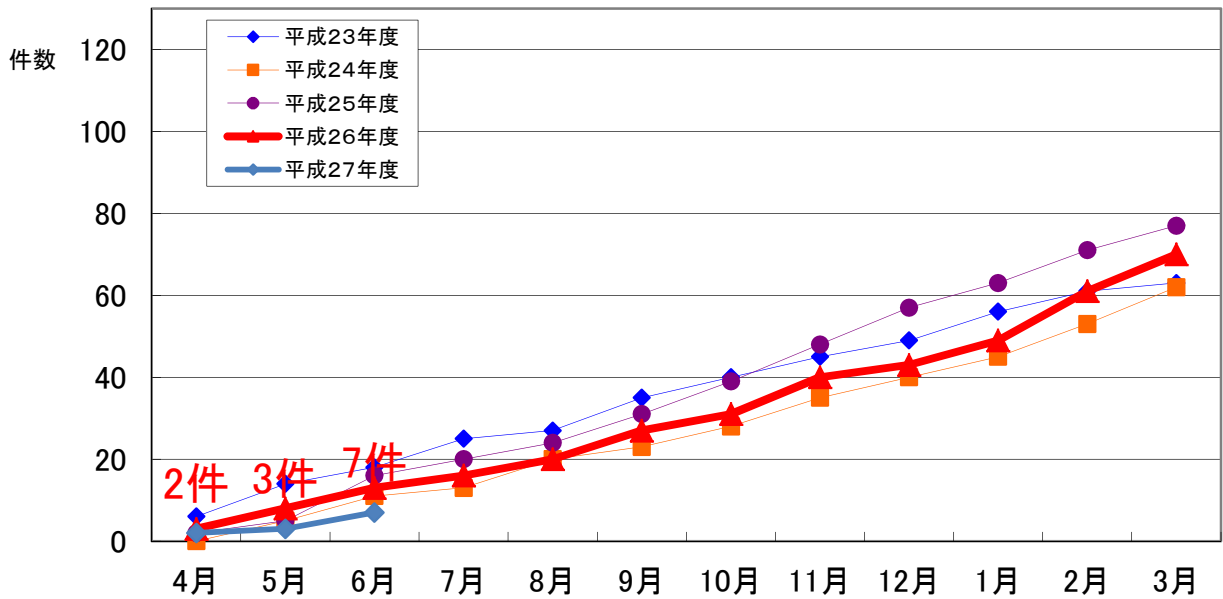
●平成27年度 工事事故発生状況(発生形態別)



	発生形態	H25	H26	H27	過去3年間計
労働災害	建設機械の稼働に関連した人身事故	6	4	2	12
	部材の加工作業等により自らを負傷	5	2	0	7
	資機材等の落下や下敷きで負傷	6	4	0	10
	墜落	6	6	1	13
	準備作業、測量調査業務等における人身事故	1	0	0	1
	その他労働災害	6	14	2	22
小計		30	30	5	65
公衆損害	架空線・標識等損傷	5	8	0	13
	地下埋設物件損傷	12	7	1	20
	第三者の負傷・第三者車両に対する損害	16	21	5	42
	その他公衆損害	10	8	4	22
	小計	43	44	10	97
その他事故		4	1	1	6
計		77	75	16	168

■ H27年度重点的安全対策項目

(参考)工事事故のうち、「その他公衆損害」における車両管理業務等の車両の自損事故を除く事故件数(車両管理業務等の車両の自損事故を除いた工事事故件数)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成23年度 累計 (月毎)	0件 (0件)	5件 (5件)	11件 (6件)	13件 (2件)	20件 (7件)	23件 (3件)	28件 (5件)	35件 (7件)	40件 (5件)	45件 (5件)	53件 (8件)	62件 (9件)
平成24年度 累計 (月毎)	2件 (2件)	6件 (4件)	8件 (2件)	18件 (10件)	23件 (5件)	31件 (8件)	42件 (11件)	50件 (8件)	63件 (13件)	66件 (3件)	67件 (1件)	74件 (7件)
平成25年度 累計 (月毎)	2件 (2件)	5件 (3件)	16件 (11件)	20件 (4件)	24件 (4件)	31件 (7件)	39件 (8件)	48件 (9件)	57件 (9件)	63件 (6件)	71件 (8件)	77件 (6件)
平成26年度 累計 (月毎)	3件 (3件)	8件 (5件)	13件 (5件)	16件 (3件)	20件 (4件)	27件 (7件)	31件 (4件)	40件 (9件)	43件 (3件)	49件 (6件)	61件 (12件)	70件 (9件)
平成27年度 累計 (月毎)	2件 (2件)	5件 (3件)	12件 (7件)									

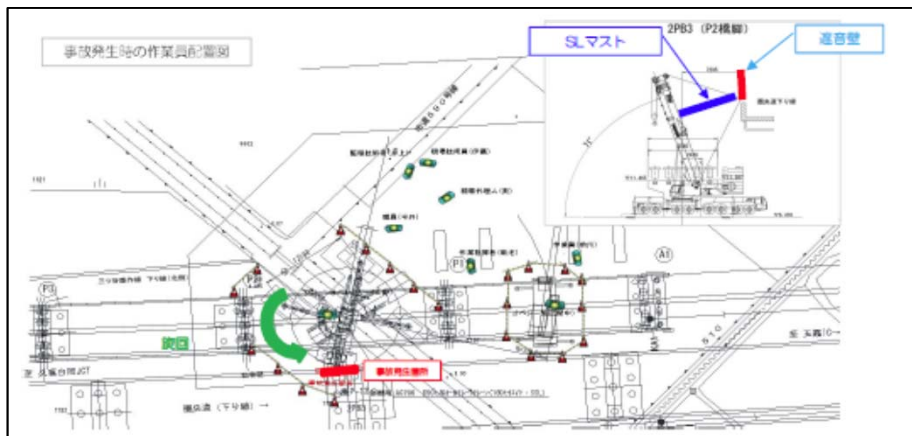
■問合せ先:企画部 技術調査課 遠藤・古賀 (TEL 048-600-1332)

発生日時	平成 27 年 6 月 2 日 (火) 9 時 0 分			
工事情報	道路系事務所 橋梁上部工事			
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度
	—	—	—	遮音パネル損傷(2枚)
事故概要	クレーン安定性の確認のため、プレロード試験を実施した際にクレーンブームのマストが遮音パネルに接触し、破損させたもの			
	公衆損害—第三者の負傷・第三者車両に対する損害			

事故発生状況



クレーンのアウトリガー下の地盤確認(プレロード試験)を実施するために、各アウトリガーにカウンタウエイトの重量を載荷させようとクレーンを旋回させた。



- ・地盤確認(プレロード試験)を実施するために、各アウトリガーにカウンタウエイトの重量を載荷させようとクレーンを旋回させたところ、背面に設置されている首都高(供用中)の遮音パネルを2枚に接触し、損傷させた。
- ・ブームの角度が70°以下であれば遮音パネルに接触しないことを確認していた。
- ・オペレーターがブーム角度を制限する安全装置を設定せずに旋回作業を行った。(71°にて接触したと考えられる)

【事故発生原因】

- ・見張員が配置される前に作業を実施
- ・安全装置の設定を怠っている。

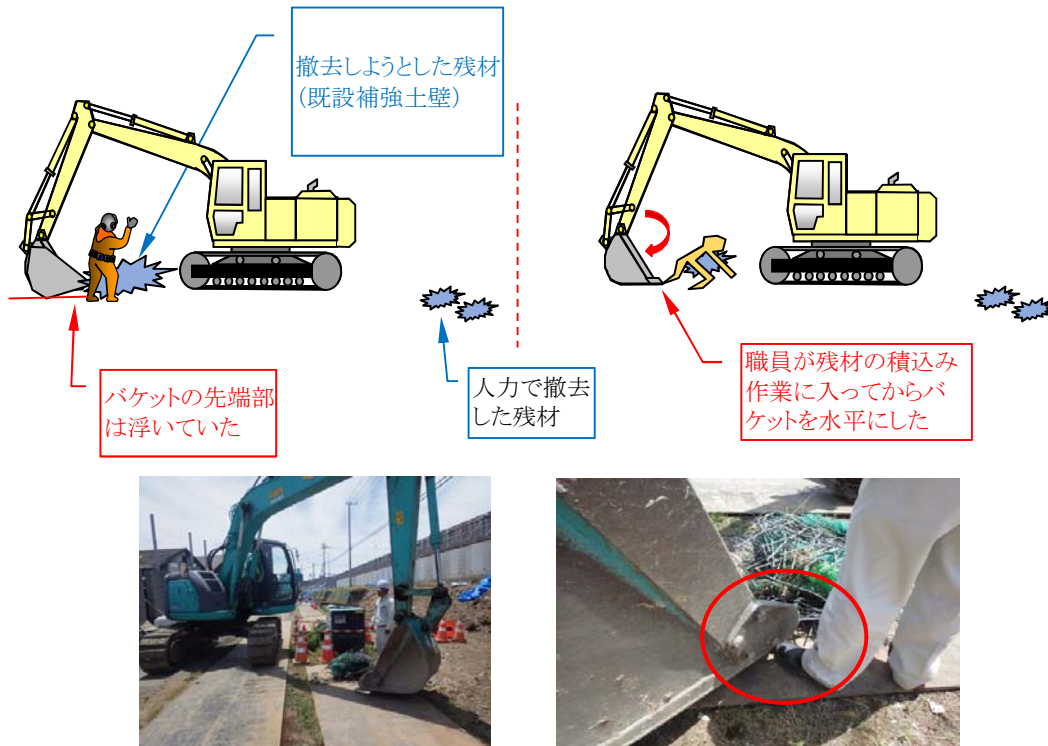
など

【事故防止のポイント】

- ・近接構造物に対する安全対策を徹底(見張員の配置、安全装置の設定・目印・防護対策等) など

発生日時	平成 27 年 6 月 4 日 (木) 9 時 40 分			
工事情報	道路系事務所 一般土木工事			
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度
	男	24	その他	第五趾開放脱臼骨折(全治1ヶ月程)
事故概要	バックホウ(0.45m ³)による片付け作業中にバックホウのバケットと敷鉄板の間に左足が挟まれ負傷。			
	労働災害-建設機械の稼働に関連した人身事故			

事故発生状況



- ・大型土のう製作ヤードでバックホウ0.45m³を使用して残材(既設補強土壁)の片付け作業を行っていた。
- ・バケット接地後、被災者が人力により残材の積み込み作業を行なおうとしたところ、残材を積み込み易くするために、オペレーターの判断でバケットの刃先を設置するように角度を水平にした。
- ・その時、被災者の左足先端がバケットと敷鉄板の間に挟まれた。

【事故発生原因】

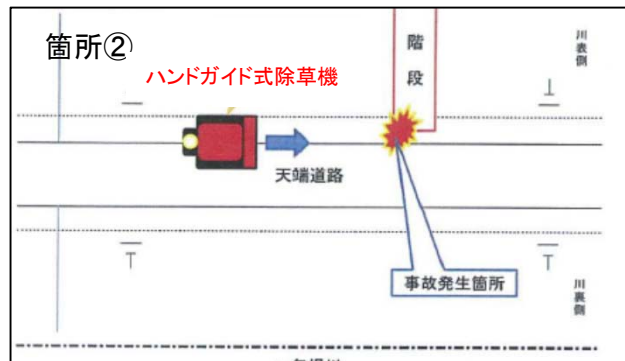
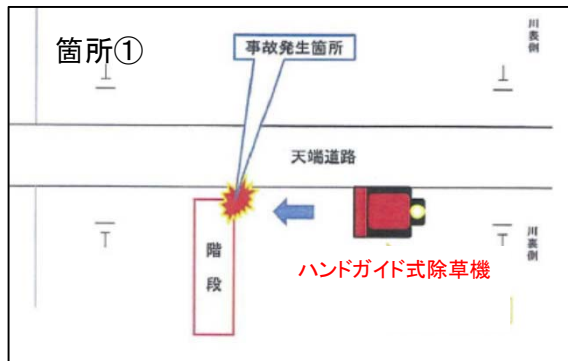
- ・作業半径内において、作業員がいるにも関わらず、オペレーターが、重機を稼働させた
- ・誘導員が配置されていない など

【事故防止のポイント】

- ・オペレーターは作業半径内で作業員が作業する場合、合図による確認を行ったうえ重機を稼働する。
- ・誘導員を配置する。 など

発生日時	平成 27 年 6 月 10 日 (水) 11 時 22 分			
工事情報	河川系事務所 維持管理工事			
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度
	—	—	—	木製階段2施設破損
事故概要	ハンドガイド式の除草機による堤防除草作業中に木製階段施設を破損させたもの 公衆損害—その他公衆損害事故			

事故発生状況



- ・ハンドガイド式草刈り機により2箇所をオペレータ1人で除草を実施。
- ・現地事前調査時は、1～2mの草が繁茂しており、木製階段について見落としがあった。
- ・先行刈りは未実施であった。

【事故発生原因】

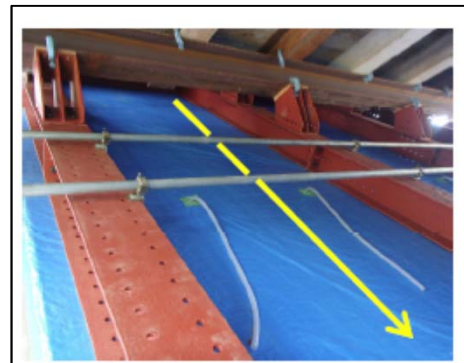
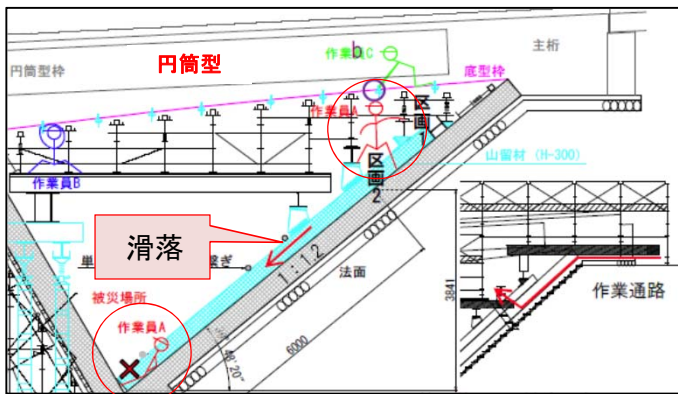
- ・既設構造物等の事前調査不足
- ・先行刈りの未実施
など

【事故防止のポイント】

- ・既設構造物等の事前調査を適切に行い、把握する。
- ・既設構造物等箇所には、目印杭を設置する
など

発生日時	平成 27 年 6 月 12 日 (金) 14 時 20 分			
工事情報	道路系事務所 橋梁上部工事			
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度
	男	52	とび・土工	左大腿骨骨幹部骨折(全治3ヶ月程)
事故概要	作業員が型枠取付け作業中に斜材コンクリート上面を滑落し、足を負傷したもの			
	労働災害-墜落			

事故発生状況



円筒型枠用固定ボルト
締込作業を実施していた

- ・底型枠下にて、円筒型枠用固定ボルト締込作業を実施していた。
- ・支保工内を移動中に足を滑らせて、斜材上約6m滑落、垂直材に衝突し被災。
- ・事故当時、安全帯を使用していなかった。
- ・作業床を設けていなかった。

【事故発生原因】

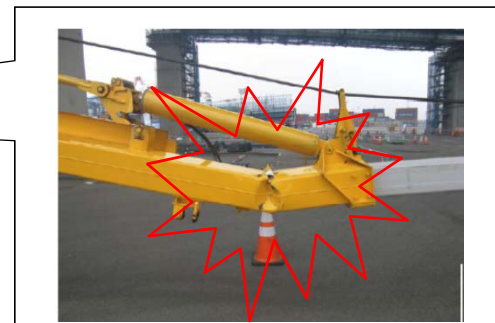
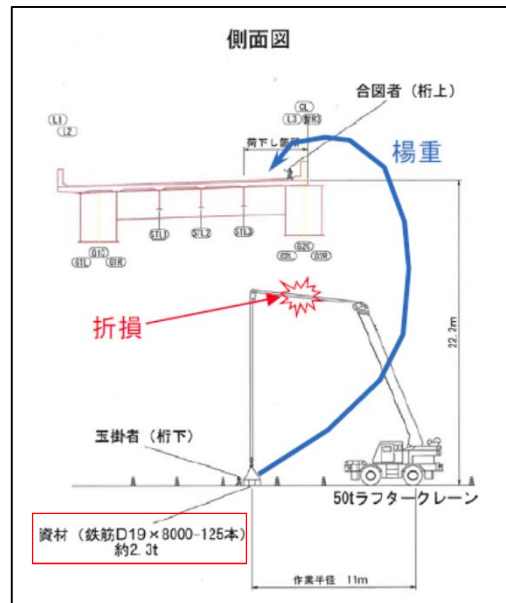
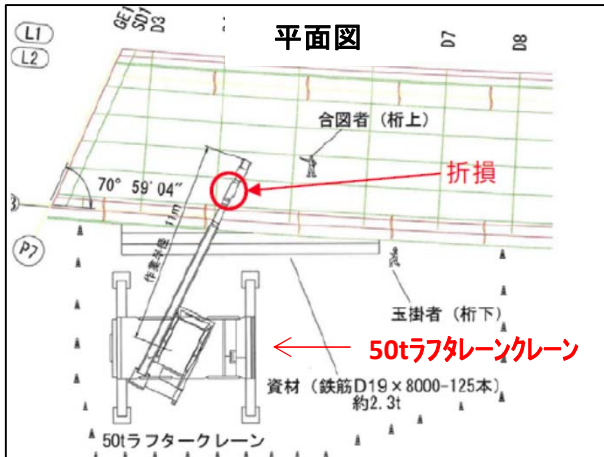
- ・安全帯を使用していない
- ・作業床が設けられていない
など

【事故防止のポイント】

- ・高所作業において安全帯の使用を徹底させる(親網を設置する等)
- ・作業場の床面を確保し、つまづき、滑り等の危険のない状態を保持する。

発生日時	平成 27 年 6 月 16 日 (火) 11 時 15 分			
工事情報	道路系事務所 一般土木工事			
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度
	—	—	—	50tラフタークレーンのジブ破損
事故概要	50tラフタークレーンで資材(鉄筋)を地上から床版などで荷揚げをしたところ、クレーンのジブが破損。 その他—その他事故			

事故発生状況



- ・桁下(地上)に仮置きした鉄筋(2.3t)を50tラフタークレーンを使用して桁上に荷揚げする作業を行っていたところジブ(孫ブーム)が折損したものの。
- ・クレーンの安全装置(過負荷防止装置)を解除し、作業していた。
- ・玉掛者がスイッチを切ったことに気づいたが、注意せずそのまま作業を継続。
- ・定格荷重表から吊荷荷重を判断せず、実際に吊って判断した(定格荷重オーバーであった。)

【事故発生原因】

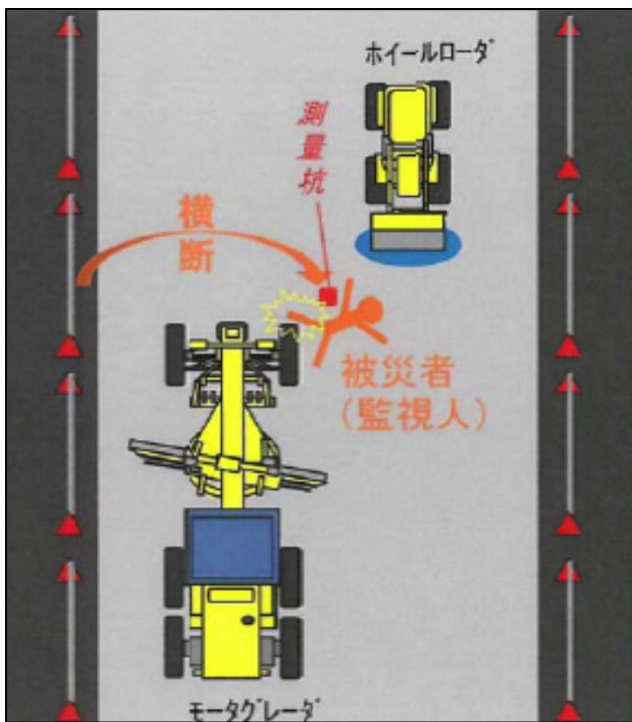
- ・定格荷重をオーバーした資材を揚上
- ・クレーンの安全装置を解除していた など

【事故防止のポイント】

- ・安全装置を作動させる
- ・不安全行動をしないように徹底させる など

発生日時	平成 27 年 6 月 20 日 (土) 16 時 35 分			
工事情報	道路系事務所 As舗装工事			
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度
	男	66	作業員	左踵部骨折、右足裂傷2箇所
事故概要	車道舗装工中にモーターグレーダーで仕上敷均しを行っていたところ、測量杭を撤去しようとした監視員が転倒し、モーターグレーダーに右足を挟まれ、負傷			
	労働災害-建設機械の稼働に関連した人身事故			

事故発生状況



- ・上層路盤工において仕上げの敷均しをモーターグレーダーで、碎石の運搬をホイールローダで行っていた。
- ・倒れかけた測量杭を見つけ撤去しようと、オペレーターに合図無く進入。
- ・余剰碎石に足を取られ転倒し、走行していたモーターグレーダー右前輪に右足を挟まれ負傷した。

【事故発生原因】

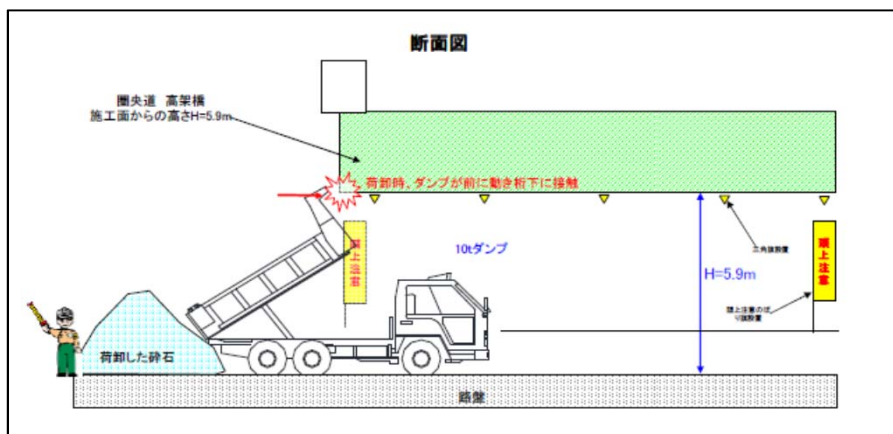
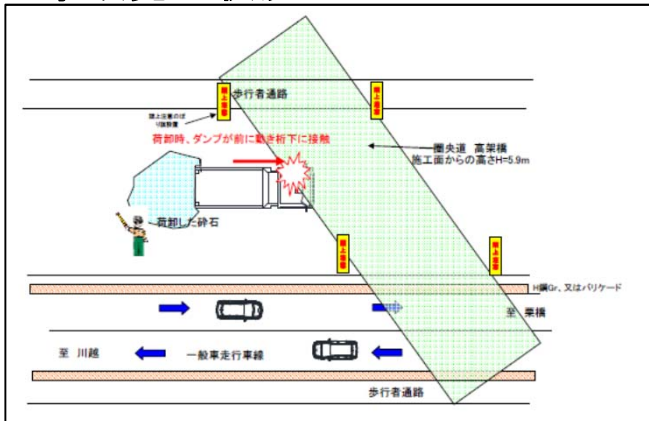
- ・監視員にもかかわらず、役割分担外の別の作業をしようとした。
- ・オペレーターに合図無く立入禁止区画内に進入した。 など

【事故防止のポイント】

- ・監視員の役割・配置等を明確にする
- ・立入禁止区画内に入る際は、オペレーターに合図を行う。 など

発生日時	平成 27 年 6 月 30 日 (火) 11 時 0 分			
工事情報	道路系事務所 As舗装工事			
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度
	—	—	—	首都高の桁下フランジ損傷(下地・塗装の剥がれ)
事故概要	圏央道高架下の常設作業帯にて車道路盤工の作業中、材料搬入ダンプが荷台の碎石をダンプアップし下ろした際、反動で荷台があがったまま前方に動き、高架橋に接触。 公衆損害—第三者の負傷・第三者車両に対する損害			

事故発生状況



・高架下の常設作業帯にて車道路盤工の作業中、材料搬入ダンプが荷台の碎石をダンプアップし下ろした際、反動で荷台があがったまま前方に動き、高架橋に接触。

・ダンプトラックのサイドブレーキを引いていなかったため、ダンプが前方に動いた。

【事故発生原因】

・上空制限構造物に対して、荷下ろし箇所・荷下ろし方法等の配慮が不足していた
など

【事故防止のポイント】

・荷下ろし箇所・方法について、十分に配慮する、またそれについて周知徹底するなど